

2. 教育学研究科

(1) 教育学研究科の教育目的と特徴	2-2
(2) 「教育の水準」の分析	2-4
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	2-4
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	2-9
【参考】データ分析集 指標一覧	2-10

(1) 教育学研究科の教育目的と特徴

1. 本研究科は、教育に関する学術の理論及び応用の授業研究に基づき、高度な資質と実践能力を備えた教育専門職者及び教育関係者を養成するとともに、教育専門職者への再教育により教育専門職者の資質の向上に資することをとおして教育文化の発展に寄与していくことを目的とする。そのために、以下の3つの専攻を設けている。

(1) 教職実践開発専攻

教育現場の多様な課題を解決する実践力と応用力を持ち、教職に関する理論と実践を融合させて教育実践を自ら開発する力量を備えた高度な教育専門職者の養成を目的とする。

(2) 心理発達支援専攻

学校教育に関わる心理臨床・教育相談・カウンセリング・特別支援教育についての高度な実践力と応用力を備え、人が生涯にわたる様々な局面で出会う心理発達の課題の解決を支援できる人材の育成を目的とする。

(3) 総合教科教育専攻

学校教育の主要な部分である各教科の教育目的・教育内容・教材開発・指導方法・評価に関して、確かな専門知識と技能、優れた研究能力と指導力を備えた高度な教育専門職者の養成を行う。また、カリキュラム・教育システム・学習情報に関する専門的知識と技能を教育実践において体系的に活用できるよう教授することにより、学校をはじめとする多様な教育の場におけるカリキュラム開発能力を有し、教育実践研究を持続的に推進できる高度な教育専門職者の養成を目的とする。

2. 特に、上記(1)の教職実践開発専攻では、地域の教育課題により応えるものとするため、2017年度より以下の2コースに改編した。一つは学校管理職となりうる教員を養成する「学校管理職養成コース」、もう一つは高度な教育実践力を修得しミドルリーダーとなりうる教員や即戦力となる新任教員を養成する「教育実践開発コース」である。特に前者(学校管理職養成コース)については、岐阜県教育委員会から小・中学校の教頭登用試験合格者等の現職教員(毎年約14名)の派遣があるとともに、学校管理職養成のためのカリキュラム・実習内容の充実を図っている。この取組は、2018年2月に、第1回のNITS大賞(独立行政法人教職員支援機構NITS)の優秀賞に選ばれるとともに、2018年7月に、「教育委員会と連携した学校管理職の養成」として、文部科学省による「国立教員養成大学・学部・大学院・附属学校の改革に関する取組状況について ～ グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集 ～」に掲載されるなど、高く評価されている。

3. 上記(2)の心理発達支援専攻では、臨床心理士、学校心理士、発達臨床心理士等の民間資格に加え、国家資格となった公認心理師を取得するための教育課程も整備し、教育現場に関わる専門職を輩出している。

4. 上記(3)の総合教科教育専攻では、言語社会コース、サイエンスコース、芸術身体表現コース、カリキュラム開発コースからなり、それぞれ専攻共通科目として設定し教科横断的な科目を修得するようにしている。また、カリキュラム開発コースでは、現職教員の学習機会の保障として以前から遠隔教育システムを導入しており、2019年度現在において、熊本県内1か所にサテライト教室を設置している。

上記の点は、大学と教育委員会が一体となり、教員養成・研修を一体化した有機的な教育体制の整備につながるものである。

岐阜大学教育学研究科

5. 2019 年度より、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）に、岐阜大学も参画することになった。これによって、本研究科の修了生が、さらに教育現場に即した研究を博士課程に進学して深める機会を保障することになった。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 4202-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料（再掲）4202-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 4202-i3-1～4202-i3-2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 4202-i3-3）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 4202-i3-4（第3条）～4202-i3-5（第2条））

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017年度に、岐阜県教育委員会との連携により、教職実践開発専攻（教職大学院）に新たに学校管理職養成コースを全国で初めて開設し、学校管理職としての力量を形成するための体系的なカリキュラムを構築した。この学校管理職の計画的な養成を行う取組は、2017年度に独立行政法人教職員支援機構による第1回 NITS 大賞・優秀賞に採択されるとともに、2018年度に文部科学省による「国立教

員養成大学・学部・大学院・附属学校の改革に関する取組状況について～グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集～」に掲載された（別添資料 4202-i3-6～4202-i3-7）。[3.1]

＜必須記載項目 4 授業形態、学習指導法＞

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 4202-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 4202-i4-2～4202-i4-3)
- ・ 専門職大学院に係るCAP制に関する規定
(別添資料(再掲) 4202-i3-4(第4条2))
- ・ 教職大学院に係る連携協力校との連携状況が確認できる資料
(別添資料 4202-i4-4～4202-i4-5)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 4202-i4-6)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 4202-i4-7)
- ・ 指標番号5、9～10(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 理論と実務の架橋を図るために、各学生に対して研究者教員と実務家教員のペアによる指導体制を組んで「臨床実習」と「開発実践報告」を実施している。また、連携連絡協議会を年2回開催し、学生の学修課題の共有と条件整備、学校現場への還元のため、学校、教育委員会との連携を図っている。派遣現職教員は、各学年1回、岐阜県教育委員会との懇談機会を設け、開発実践報告を報告し、助言を得ている。学部卒業者は、免許や開発実践報告のテーマに応じて実習校に配置し、学校のメンター教員と連携した指導体制を構築している。連携連絡協議会による取組は、2016年度に受審した教職大学院認証評価において「現職教員学生の安定的な派遣や修了生の処遇、人事交流による専任教員の採用等を支える重要な役割を果たしている」点が評価されている。[4.6]

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 4202-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 4202-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 4202-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 4202-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 4202-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 4202-i6-2【非公表】～4202-i6-3【非公表】）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 4202-i6-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 4202-i7-1（第4条））
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 4202-i7-2（第46条）～4202-i7-3（第19条））
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料（再掲）4202-i3-5）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料（再掲）4202-i7-2（第46条）～（再掲）4202-i7-3（第19条））
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料（再掲）

4202-i3-5、4202-i7-4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

＜必須記載項目8 学生の受入＞

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料（再掲）4202-i1-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 4202-i8-1）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2018年度から大学院入試（一部の領域を除く）において、大学が指定する語学試験の基準（点数）を満たしている者を対象に、英語の試験免除措置を新たに実施した。これにより、2019年度は3名が英語の試験免除の措置を受けた。[8.1]

＜選択記載項目A 教育の国際性＞

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料（再掲）4202-i4-6)
- ・ 指標番号3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

＜選択記載項目C 教育の質の保証・向上＞

【基本的な記載事項】

(特になし)

岐阜大学教育学研究科 教育活動の状況

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育の質の保証・向上のため、教育改善に資するFDを積極的に実施した。具体的には、2018年度から教育学研究科の教員が持ち回りで担当するミニFDを新たに実施した（表1-C-1）。ミニFDの実施によって、教員が自らの教育の改善への取組を苦勞した点も含めて披瀝することで、教育の質保証・向上を教育学研究科内で共有できる仕組みを整えることができた。[C.1]

表 1-C-1 教育の質の保証・向上に関連するFDの実施状況

年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
実施回数	2	6	9	6

<選択記載項目D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 4202-iD-1）
- ・ 指標番号 2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

＜必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等＞

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 4202-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料（再掲）4202-ii1-1）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜必須記載項目 2 就職、進学＞

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）
- ・ 教員就職率（教員養成課程）（文部科学省公表）
- ・ 正規任用のみの教員就職率（教員養成課程）（文部科学省公表）
- ・ 教員就職率（教職大学院）（文部科学省公表）
- ・ 正規任用のみの教員就職率（教職大学院）（文部科学省公表）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。